日本語の理由表現・理由疑問表現

杉浦　滋子

キーワード：日本語、理由表現、理由疑問表現、統語的制約、意味的制約

要旨

日本語の理由表現及び理由疑問表現には発話の根拠、実際の理由、名目上の理由という三つのレベルがあり、それぞれの語彙項目によりどのレベルの意味を表せるかが決まっている。また、実際の理由を問う理由疑問表現には「なぜ」類と「どういう理由で」があるが、「なぜ」類がより高い統語的位置を占めるという統語的制約に加え、既定の事態のみを修飾するという意味的制約が存在する。

1.日本語の理由表現と理由疑問表現

日本語において理由を表す表現はいくつか存在する。(1a-d)の「から」「ので」「ため」「て」は理由を表現する要素が節である場合に使われ、(1e-f)「のため」「から」「で」は理由を表現する要素が名詞である場合に使われる。

(1)　a. 体調が悪いから早退した。
　　b. 体調が悪いので早退した。
　　c. 体調が悪いため早退した。
　　d. 体調が悪くて早退した。
　　e. 体調不良のため早退した。
　　f. 体調不良から早退した。
　　g. 体調不良で早退した。

また、理由を問う表現（理由疑問表現と呼ぶこととする）もいくつか存在する。これらの疑問文の答として(1)を用いることができる。

(2)　a. なぜ早退したの？
　　b. どうして早退したの？
　　c. なんで早退したの？
　　d.どういう理由で早退したの？

本稿では日本語の理由表現と理由疑問表現がどのような統語的・意味的制約に従っているか考察する。

2.理由表現と理由疑問表現の統語的位置

まず、(1)の理由表現と(2)の理由疑問表現は統語的に同じ位置を占めるのかどうかということを考えてみたい。理由疑問表現以外の疑問表現についても理由疑問表現についても、対応する形式と同じ位置を占めると考えるのが当然のように思える。例えば、(3a)の「本」と(3b)の「何」は同じ統語的位置を占めると考えるのが当然のように思える。

(3)　a. 彼女は本を買った。
　　b. 彼女は何を買ったの？

しかし、他言語においては疑問表現とそれに対応する要素が明らかに異なる位置に現れることがあるのは周知の事実である。日本語の(3)に相当する英語の(4)では、a book が現れる位置と what が現れる位置は異なる。

(4)　a. He can buy a book.
　　b. What can he buy?

生成文法の枠組においては、英語のような言語では(5)のように、生成された位置から表面に現れる位置に移動があったとみなす。移動があったとすることによって、疑問文とその答となる平叙文において、疑問詞とその答となる要素が同じ統語的位置にあることと表面的に語順が異なることを説明するわけである[(1)]。

(5)　he can buy what

「なぜ」にあたる英語の why についても同様に、(6c)のように生成された位置は主節の後で、why もこの位置に生成され、表面上の位置に移動しているという分析が考えられる[(2)]。

(6)　a. She resigned because her health was deteriorating.
　　「彼女は健康が悪化して来ていたので辞職した。」
　　b. Why did she resign?
　　「なぜ彼女は辞職したの？」

c. ↑ she resigned why

しかし、英語で複数疑問詞疑問文を観察すると、what は(7a)のように移動しない元の位置に現れるが、(7b)のように主節の後の why は非文法的となる。そのため、why は対応する理由表現が現れる位置ではなく、元々文頭の（高い）位置に生成されると考えられる。

(7) a. Who bought what?
「誰が何を買ったの？」
b. *Who came why?
「誰がなぜ来たの？」

だとすると、英語においては(6a)の理由表現と(6b)の理由疑問表現は統語的に同じ位置にないということになる。日本語の理由表現・理由疑問表現を次節以降で見ていく。

3.日本語理由表現の統語的位置

この節ではまず理由表現が三つのタイプに分かれることを見る。

3.1.発話行為の根拠を示す理由表現

(8)-(9)においては理由表現が用いられている。

(8) a. 私が怒られるから散らかさないで。
b. 皆さんの御迷惑だからおとなしくしなさい。
c. もうすぐ開店だからここで待とう。
(9) a. 電気がついているから鈴木さんはまだ研究室にいるよ。
b. 灯台が見えてきたからもうすぐ着くよ。

しかし、(1)に(2)が対応するように、(8)-(9)に形式的に対応する理由疑問文が存在するかを見ると、そうではない。(8)と同じ位置に理由疑問表現のある文を検討してみると、(8)に対応する(10)は非文法的であり、(9)に対応する(11)は文法的だが、(9)に対応する意味をもっていない[(3)]。

(10) a. *｛なぜ／どうして／なんで／どういう理由で｝散らかさないで？
b. *｛なぜ／どうして／なんで／どういう理由で｝おとなしくしなさい？
c. *｛なぜ／どうして／なんで／どういう理由で｝ここで待とう？

(11) a. #｛なぜ／どうして／なんで／どういう理由で｝鈴木さんはまだ研究室にいる

の？

b. #｛なぜ／どうして／なんで／どういう理由で｝もうすぐ着くの？

(8)-(9)に対応する理由疑問文としては、(12)-(13)が適切である。

(12) a. ｛なぜ／どうして／なんで｝「散らかさないで」と言うの？
b. ｛なぜ／どうして／なんで｝「おとなしくしなさい」と言うの？
c. ｛なぜ／どうして／なんで｝「ここで待とう」と言うの？

(13) a. ｛なぜ／どうして／なんで｝「鈴木さんはまだ研究室にいる」と言うの？
b. ｛なぜ／どうして／なんで｝「もうすぐ着く」と言うの？

加藤(2004)が理由表現を「話者の発話時における判断・主張（つまりは後件の発言）の根拠、理由を表すもの」と「事柄間の因果関係を表すもの」とに分かれると指摘しているが、(8)-(9)の理由表現は前者に属しており、主節の理由を述べているのではなく、話者が主節を発話する理由を述べているのである。(8)の理由表現は「なぜ自分がある発話行為を行うか」の理由、(9)の理由表現は「なぜ自分がある命題を真として述べるか」の理由を表すものである[(4)]。

3.2.実際の理由と名目上の理由

(14)のような文においては二通りの解釈、つまり理由が実際の理由であるという解釈と、理由が名目上のものである解釈がある。そして、理由疑問表現によってそのどちらを問う事ができるかが異なる。「なぜ」「どうして」「なんで」は実際の理由の質問にしか使えず、名目上の理由を尋ねることはできないが、「どういう理由で」は実際の理由、名目上の理由どちらをも尋ねることができる。

(14) a. 体調不良で辞職した。
b.風邪で欠席した。

(15) a. ｛なぜ／どうして／なんで｝辞職したの？
b. ｛なぜ／どうして／なんで｝欠席したの？
c. どういう理由で辞職したの？
d. どういう理由で欠席したの？

理由表現においても、以下の理由表現は実際の理由のみを表し、名目上の理由を表すことはない。

(16) a. 体調不良だから辞職した。
b. 体調不良なので辞職した。
c. 体調不良のため辞職した。
d. 体調が悪くて辞職した。

3.3.発話の根拠、実際の理由、名目上の理由の統語的位置

以上、理由表現には発話の根拠を述べるもの、実際の理由を述べるもの、名目上の理由を述べるものという三つのタイプがある。次に、それらが統語的にどのような位置を占めるかを考えてみる。語順を観察してみると、(17)は発話の根拠を含む例で、「体調不良で」は実際の理由とも名目上の理由とも解釈できるが、どちらにしろ発話の根拠が先行しなければならない。

(17) a. 私のせいにされるから体調不良で欠席しないで。
b. *体調不良で私のせいにされるから欠席しないで。

そして、実際の理由と名目上の理由が共起する例を見ると、実際の理由が名目上の理由より先行しなければならない。

(18) a. 気乗りしなかったから体調不良で欠席した。
b. *体調不良で気乗りしなかったから欠席した。

つまり、発話の根拠→実際の理由→名目上の理由という語順になっている。この語順を説明するために、文の中にレベルを想定し、そのレベルによって語順を決まり、それぞれのタイプが現れることができるレベルに制約があると考えることができる。(19)のようになる。そして、意味から考えると、発話の根拠が現れるレベルには、文がどのような発話行為であるかを表すという情報があると考えられる[(5)]。

(19)　発話の根拠　＞　実際の理由　＞ 名目上の理由

また、理由表現、理由疑問表現の中には特定のレベルにのみ現れる形式がある。

	発話の根拠	実際の理由	名目上の理由
理由表現	から、ので	から、ので、のために、で、活用語て形	で
理由疑問表現	―	なぜ、どうして、なんで、どんな理由で、どういう理由で	どんな理由で、どういう理由で

ただし、「実際の理由」というレベルに入る理由疑問表現については異なる統語的振る舞いがあるため、異なる統語的地位を占めるとする分析があるので次に検討する。

4.実際の理由を問う理由疑問表現

英語において why が他の疑問表現と異なる性質をもつことに言及したが、for what reason（どういう理由で）のような理由疑問表現は(20)に見るように他の疑問表現と同じように振る舞う。このことから、英語の理由疑問表現には高い位置に現れるものと低い位置に現れるものがあることになる。

(20) a. *Who left why?
「誰がなぜ帰ったの？」
b. Who left for what reason?
「誰がどういう理由で帰ったの？」

Tsai (1999)によると、中国語においては weishenme という理由疑問形式に、-le が挿入できる場合とできない場合がある。そして、挿入できない weishenme はモダリティ形式 hui/bixu/neng/keyi/yinggai より上位に現れることができるものの、下位に現れることはできない。それに対し、-le が挿入できる weishenme は モダリティ形式 hui/bixu/neng/keyi/yinggai より上位に現れることができず、下位に現れる。そのため、前者はモダリティ形式 hui/bixu/neng/keyi/yinggai より高い位置を、後者はより低い位置を占めるとした[(6)]。

(21) a. Akiu weishenme hui/bixu/neng/keyi/yinggai zou?
Akiu why will/must/can/may/should leave
'Why would/must/can/may/should Akiu leave?'
b. *Akiu hui/bixu/neng/keyi/yinggai weishenme zou?
Akiu will/must/can/may/should why leave
(22) a. Akiu hui/bixu/neng/keyi/yinggai wei(-le) shenme cizhi?
Akiu will/must/can/may/should for(-Prf)[(7)] what resign
'For what (purpose) will Akiu resign?'
b. ??Akiu wei(-le) shenme hui/bixu/neng/keyi/yinggai cizhi?
Akiu for(-Prf) what will/must/can/may/should resign

日本語においても「なぜ」が CP 付加詞という高い位置で生成され、「どんな理由で」がより低い位置に生成されるという提案がなされている（藤井・瀧田 2012）。(23)に見るように、「なぜ」が「必ず」に先行し、「どういう理由で」が後続することが根拠とさ

れる。

(23) a. アキラはなぜ必ずお粥を食べるの？
b. ??アキラは必ずなぜお粥を食べるの？
c. アキラは必ずどういう理由で学校をさぼるの？

意味の面を考えると、「なぜ」類と「どういう理由で」が異なるレベルに属しているならば、そのことが意味に影響を及ぼすと考えられる。日本語で理由疑問表現と使役、希望、可能、「～ていい」「～べき」「～なければならない」「～かもしれない」というモダリティ形式との共起の様子を見ると、「なぜ」「どうして」「なんで[8]」と「どういう理由で」は解釈において違いがある。

(24) a. なぜ行かせるの？
b. どうして行かせるの？
c. なんで行かせるの？
d. どういう理由で行かせるの？

(25) a. なぜ行きたいの？
b. どうして行きたいの？
c. なんで行きたいの？
d. どういう理由で行きたいの？

(26) a. なぜ仕事を休めるの？
b.どうして仕事を休めるの？
c.なんで仕事を休めるの？
d.どういう理由で仕事を休めるの？

(27) a. なぜ仕事を休んでいいの？
b. どうして仕事を休んでいいの？
c. なんで仕事を休んでいいの？
d. どういう理由で仕事を休んでいいの？

(28) a. なぜ仕事を休むべきなの？
b. どうして仕事を休むべきなの？
c. なんで仕事を休むべきなの？
d. どういう理由で仕事を休むべきなの？

(29)　a. なぜ仕事を休まなければならないの？
　　b.どうして仕事を休まなければならないの？
　　c. なんで仕事を休まなければならないの？
　　d. どういう理由で仕事を休まなければならないの？

(30)　a. なぜ仕事を休むかもしれないの？
　　b. どうして仕事を休むかもしれないの？
　　c. なんで仕事を休むかもしれないの？
　　d. どういう理由で仕事を休むかもしれないの？

(24’)　a. 仕事に行かせるのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事に行くことをさせる x とは何か？

(25’)　a. 仕事に行きたいのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事に行くことを希望するような x とは何か？

(26’)　a. 仕事を休めるのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事を休むことができるような x とは何か？

(27’)　a. 仕事を休んでいいのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事を休んでいいような x とは何か？

(28’)　a. 仕事を休むべきなのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事を休むべきというような x とは何か？

(29’)　a. 仕事を休まなければならないのはなぜ？
　　b. x という理由で仕事を休まなければならないというような x は何か？

(30’)　a. 仕事を休むかもしれないのはなぜ？
　　b.　x という理由で仕事を休むかもしれないというような x とは何か？

(24a-c)においては(24’a)の解釈のみであるが、(24d)には(24’a, b)両方の解釈がある。(25-30)においても同様である。これらのデータを説明するために、「なぜ」類が高いレベルに属し、「どういう理由で」がより低いレベルに属するという提案を用いて意味の違いを説明することが考えられる。(31)で使役を例として図示したように、「どういう理由で」は動詞語幹と同じレベルに現れ、動詞語幹を主要部とする単位のみを修飾する

ことができ、かつ使役を含む単位をも修飾することができるが、「なぜ」類は高いレベルにのみ現れ、より低いレベルに現れる動詞語幹を主要部とする単位のみを修飾することができないと考えるわけである。

(31) { なぜ / どういう理由で } … [どういう理由で　yasum-　] -aseru

この方向が正しければ、使役、希望、可能、モダリティ形式を含む単位であれば「なぜ」類が文法的であり、意味の上でそれらの単位を修飾することが予測される。

しかし、そのような単位であっても「なぜ」類が非文法的になる場合がある。上の例文から「…（な）の」を除いた例文を見てみよう[9]。

(32) a. #なぜ行かせる？
b. #どうして行かせる？
c. #なんで行かせる？
d. どういう理由で行かせる？

(33) a. *なぜ行きたい？
b. *どうして行きたい？
c. *なんで行きたい？
d. どういう理由で行きたい？

(34) a. #なぜ仕事を休める？
b. #どうして仕事を休める？
c. #なんで仕事を休める？
d. どういう理由で仕事を休める？

(35) a. *なぜ休んでいい？
b. *どうして休んでいい？
c. *なんで休んでいい？
d. どういう理由で休んでいい？

(36) a. *なぜ行くべき？
b. *どうして行くべき？
c. *なんで行くべき？
d. どういう理由で行くべき？

(32)(34)(a-c)は(37)-(38)のような修辞的疑問文としては使えるが、通常の疑問文としては使えない。

(37)　そこまでわかってて｛なぜ／どうして／なんで｝黙って行かせる？

(38)　a. みんなが忙しい時期にお前は｛なぜ／なんで｝平気で仕事を休める？
　　b. もちろん私も働くよ。みんなが忙しい時期にどうして私だけ仕事を休める？

(33),(35),(36)では(a-c)は非文法的、(d)は文法的である。

これらのデータは二つの問題を提起する。(a)-(c)が通常の疑問文としては非文法的であり(d)が文法的であるのはなぜかということと、(d)の文が「…（な）の」を含まない対応する文と比べて意味の違いがあるのはなぜかということである。(32)-(36)d は(24)-(30)d と意味が異なる。使役を例にとると、(24d)はどういう理由で行かせるかが既に決まっていて聞き手がそれを知っており、話し手はそれを知らないため聞き手に尋ねている。それに対して(32d)ではどういう理由で行かせるかはまだ決まっておらず、それについて話し手が聞き手に相談をもちかけている状況である。つまり、ここで重要なのは「決まったこと」なのか「決まっていないこと」なのか、という違いである。どちらも未来の事態を表しているが、未来の行動であっても「どのように行動するか決まっている」か「どのように行動するか決まっていない」かが異なっている。そこで、疑問詞を含む節に付く「～の」が疑問詞を除いた部分の表す事態が決まっていることを表すこと、そして「なぜ」類は決まっている事態のみを修飾するという意味的な制約をもつと考える。

「～の」がこのような形で既定の事態を表すことはモダリティ形式のつかない疑問文でも観察できる。

(39)　a. なぜ行くの？
　　b. どうして行くの？
　　c. なんで行くの？
　　d. どういう理由で行くの？

(40)　a. #なぜ行く？
　　b. #どうして行く？
　　c. #なんで行く？
　　d. どういう理由で行く？

「～の」の付かない(40)(a-c)は(32)(34)(a-c)と同様、(41)のように修辞的疑問文としては文法的であるが、ここでは通常の疑問文のみ考察の対象とする。

(41)　a. なぜそこで寝る？　http://www.youtube.com/watch?v=W5iSzAXyUa4
　　b. 親よ、なぜそんなところで３歳児から目を離した…
　　https://twitter.com/kibitann/statuses/236696081151430656
　　c. 海よおまえはなぜいつも僕の願いをうちくだく　[中略]
　　波よおまえはなぜいつも僕の想いを運び去る
　　（「夕陽と共に」ザワイルドワンズ）
　　d. お前はなぜ生き急ぐ　（「大聖堂」泰葉）

こういった修辞的疑問文を除外すると、(32)-(36)と同じように、「～の」が付く場合には「なぜ」類、「どういう理由で」共に文法的で、「～の」が付かない場合(40)(a-c)では「なぜ」類が非文法的で、(40d)では「どういう理由で」はどういう理由で行くかが決まっておらず、それを決めるべく話し手が聞き手に相談しているという解釈になる。

Ko (2006)においては、日本語の「なぜ」は疑問標識（「か」あるいは「の」）を伴う必要があるという仮説が提案されている。この仮説で(32)-(36)(a-c)が非文法的であることは説明できるが、(24)-(30)d と(32)-(36)d において「～の」の有無で文の意味が変わることは説明できない。

ほかに、「なぜ」類は時制を含む要素のみを修飾するという仮説も考えられるが、この仮説もまた「～の」の有無で文の意味が変わることは説明できない。

加えてこの仮説には別の反論ができる。「の」が付くと付かないでは、モダリティ形式の現れないル形は(42a)のような習慣を表す場合、(42b)のような意志を表す場合という、仮定では無い事態を表す表現に加えて(42c)のように仮定の事態を表現する場合がある。

(42)　a. 私は毎日バイトに行く。
　　b. 「誰か行ってくれない？」「じゃあ私が行く。」
　　c. 先生がいらっしゃるって言えば、鈴木さんもきっと来る。

タ形も(43a)のように過去の事態を表す場合と(43b)のように仮定の事態を表現する場合がある。

(43)　a. 鈴木さんは 8 時に来た。
　　b. 先生がいらっしゃるって伝えておけば、鈴木さんもきっと来た。

ル形、タ形が仮定の事態を表す例文を検討してみると「なぜ」類は非文法的、「どういう理由で」は文法的である。

(44)　a. *あなたならなぜ行く？
　　b. *あなたならどうして行く？
　　c. *あなたならなんで行く？
　　d. あなたならどういう理由で行く？

(45)　a. *あなたならなぜ行った？
　　b. *あなたならどうして行った？
　　c. *あなたならなんで行った？
　　d. あなたならどういう理由で行った？

仮定の事態を表現する文であっても時制をもっているのは明らかなので、「なぜ」類がこれらと共起しないことを説明するには時制をもつ節とのみ共起するという仮説では不十分であるが、「なぜ」類が決まっていない事態を修飾できないと考えるべきである[(10)]。

5.「だろう」「のだろう」を用いた理由疑問文

「だろう」と「のだろう」を用いた理由疑問文を比べると、(45)-(46)で見るように前者は「なぜ」類とは共起しない。(45d), (46d)で見るように「どういう理由で」は共起するが、それは仮定の事態としての解釈のもとである。それに対し、(47)-(48)で見るように「のだろう」との共起は「なぜ」類も可能であり、仮定ではなく実際の事態との解釈が可能である。「だろう」文が「～の」の付かない文と同じパターン、「のだろう」文が「～の」の付く文と同様のパターンを見せており、かつ意味の点でも前者が仮定という決定していない事態、後者が仮定でない実際の事態を表している。

(46)　a. *（行くとしたら）なぜ行くだろう？
　　b. *（行くとしたら）どうして行くだろう？
　　c. *（行くとしたら）なんで行くだろう？
　　d. （行くとしたら）どういう理由で行くだろう？

(47)　a. *（行ったとしたら）なぜ行っただろう？
　　b. *（行ったとしたら）どうして行っただろう？
　　c. *（行ったとしたら）なんで行っただろう？
　　d. （行ったとしたら）どういう理由で行っただろう？

(48)　a. なぜ行くのだろう？
　　b. どうして行くのだろう？
　　c. なんで行くのだろう？
　　d. どういう理由で行くのだろう？

(49)　a. なぜ行ったのだろう？
　　b. どうして行ったのだろう？
　　c. なんで行ったのだろう？
　　d.. どういう理由で行ったのだろう？

「なぜ」類が決まっている事態のみを修飾し、「のだろう」が「～の」と同じように決まっている事態を表現していると考えれば、このパターンが説明できる。

6.疑似分裂構文

日本語の理由疑問文には、次のように対応する疑似分裂疑問文がある。

(50)　a. なぜ学校をさぼるの？
　　b. どうして学校をさぼるの？
　　c. なんで学校をさぼるの？
　　d. どういう理由で学校をさぼるの？

(51)　a. 学校をさぼるのはなぜ？
　　b. 学校をさぼるのはどうして？
　　c. 学校をさぼるのはなんで？
　　d. 学校をさぼるのはどういう理由で？

しかし、(52a)のような相談を持ちかける理由疑問文や(52b)のような仮定の事態について問う理由疑問文は疑似分裂文と対応しない。つまり、(50d)は(51d)と同じ意味だが、(52a, b)は(51d)と意味が異なる。

(52)　a. どういう理由で学校をさぼる？
　　b. あなただったらどういう学校をさぼる？

分裂文、疑似分裂文は前提と焦点に分かれる。前提であればそれは当然決まっていることであるので、「～の」の付いた(50)が疑似分裂疑問文に対応し、「～の」の付かない(52)が対応しないのは、「～の」が決まった事態を表現するという本稿の分析を支持す

る。

7.結び

本稿では、日本語の理由表現と理由疑問表現を検討し、理由疑問表現については発話の根拠、実際の理由、名目上の理由の三つにタイプ分けした上で実際の理由を問う理由疑問表現に見られる二つのタイプについて、「なぜ」類が決まった事態のみを修飾するという意味的な制約があると主張した。 Bromberger (1992) は英語の why 疑問文の why を削除し、残った部分を疑問として発したときに肯定的な答の意味するものをその why 疑問文の前提と呼んでいる(11)。それならば、「なぜ」類は前提をもつが「どういう理由で」は前提をもたない（またはもつこともあり、もたないこともある）という形で「なぜ」類と「どういう理由で」を区別することが できるかというと、それはできない。なぜなら「どういう理由で」も前提をもつからである。「～の」が付いている場合にも付いていない場合にも「行く」ということはすでに決まっている。

(53)　a. どういう理由で行くの？
　　b. どういう理由で行く？

つまり、どちらにも前提があるが、その前提の範囲が異なっており、その前提の範囲は疑問理由表現が修飾する範囲なのである。さらに言えば、他の疑問詞を用いた(53)では「行く」ということが前提になっている。そのため、「なぜ」類は前提をもつとするだけでは「なぜ」類疑問文とその他の疑問詞疑問文との違いを説明することはできず、前提となる範囲の違いに言及する必要がある。

(54)　a. ｛いつ／だれと／どこへ／何で／どうやって｝行くの？
　　b. ｛いつ／だれと／どこへ／何で／どうやって｝行く？

「なぜ」類と「どういう理由で」及び他の疑問詞の修飾する範囲は統語的に違う位置を占めるという制約に従うが、異なる統語的制約に従うということだけでは説明できず、「なぜ」類が既定の事態のみを修飾するという意味的な制約が必要である。

注

(1) これらの言語ではそのほかに主語と時制を担う要素の語順の入れ替えが起こる。

(2) Because 節は(i)のように主節の前に現れることも可能だが、イントネーションの点からより有標と判断できる。

(i) Because her health was deteriorating, she resigned.

(3) 文法的であるが異なる意味解釈となる場合に#を用いる。

(4) 英語においては理由表現は通常主節の前後に現れることができるが、発話の根拠を表す理由表現は主節の後にのみ現れる。(ib)は文法的だが、「電気がついていること」が「ジョンがまだオフィスにいること」の理由という解釈となる。

(i) a. John is still in his office, because the lights are on.
「電気がついているからジョンはまだオフィスにいる。」
b. #Because the lights are on, John is still in his office.

(ii) a. We should arrive very soon, because we can see the lighthouse.
「灯台が見えるからもうすぐ到着するはずだ。」
b. *Because we can see the lighthouse, we should arrive very soon.

(5) 発話に関わる要素には、次のようなものがある。これらは、話し手の主節で述べられる事態についての判断、話し手が主節をどのように表現しているかを表す。

(i) a. 幸い／残念なことに／困ったことに／迷惑なことに／不名誉なことに
b. 正直／正直に言って／ぶっちゃけ

これらの要素と発話の根拠との関係を見ると、発話の根拠が先行する。

(ii) a. 電気がついているから、幸運なことに鈴木さんはまだ研究室にいるよ。
b. ?幸運なことに、電気がついているから鈴木さんはまだ研究室にいるよ。

(6) (21)-(22)のグロス、訳については Tsai(1999)のものをそのまま引用した。細かい意味のニュアンスが不明であるため和訳は付さなかった。ただし、(22)の英訳から察するに、wei(le)shenme は目的という意味合いがあると思われる。

(7) Prf = perfect aspect（完了）

(8) 「なんで」は「何＋で」との解釈が可能な場合もあるが、以降その解釈は排除して考え、単一語彙項目としての「なんで」のみを考慮する。

(9) 「～なければならない」「～かもしれない」については「どういう理由で」を用いた疑問文が非文法的であるが、その理由については現在提案できない。

(i) a. *どういう理由で仕事を休まなければならない？
b. *どういう理由で仕事を休むかもしれない？

(10) 動詞勧誘形を含む疑問文も同じパターンとなるが、「なぜ」類疑問文には疑問標識が必要とする仮説でも説明可能である。また、これらには時制がないとするならば「なぜ」類は時制をもつ単位しか修飾できないという仮説でも説明可能である。

(i) a. *なぜ休もう？
b. *どうして休もう？
c. *なんで休もう？
d. どういう理由で休もう？

(11) 英語の場合、疑問文が肯定疑問文であれば yes, 疑問文が否定疑問文であれば no を用いることになる。

参考文献

Bromberger, S. (1992) “Why-Questions.” In *On What We Know We Don't Know.* Chicago University Press & Center for Study of Language and Information, Stanford.

Ko, H. (2005) “Syntax of why-in-situ: Merge into [Spec,CP] in the overt syntax.” *Natural Language & Linguistic Theory* 23:867-916.

Reinhart, T. (1998) “Wh-in situ in the framework of the Minimalist Program.” *Natural Language Semantics* 6:29-56.

Rizzi, L. (2001) “On the Position “Int(errogative)” in the left periphery of the clause.” In Cinque, G. and G. Salvi (eds.) *Current Studies in Italian Syntax – Essays offered to Lorenzo Renzi*, North-Holland.

Stepanov, A. & W.-T. D. Tsai (2008) “Cartography and licensing of wh-adjuncts: a cross-linguistic perspective”. *Natural Language & Linguistic Theory* 26(3):589-638.

Tsai, W.-T. D. (1994) “On nominal islands and LF extraction in Chinese.” *Natural Language and Linguistic Theory* 12:121-175.

------ (1999) “The Hows of *Why* and the Whys of *How*.” In Del Gobbo, F. and H. Hoshi (eds.) *UCI Working Papers in Linguistics* 5. 155-184.

Yanagida, Y. (1996) “Syntactic QR in wh-in-situ languages.” *Lingua* 99:21-36.

加藤薫 (2004)「原因・理由の表現について　―『ので』と『から』の異同を中心として―」『文化女子大学紀要　人文・社会科学研究 2』　[論説資料保存会『日本語学論説資料 CD-ROM 版第二分冊』所収]

藤井友比呂・瀧田健介 (2012)　「理由副詞節の生成位置とコントロール節の修飾について」『日本言語学会第 145 回大会予稿集』pp. 190-195